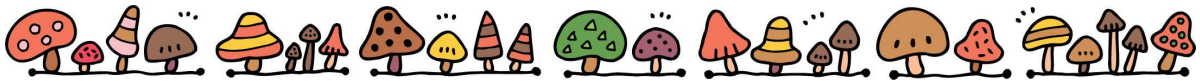


くれまちす通信



令和8年10月
岐阜聖徳学園大学内
地域子育て支援センターくれまちす発行
<http://www.shotoku.ac.jp/>

朝夕は涼しくなり、今年の猛暑を思うと随分過ごしやすくなりました。しかし、季節の変わり目は子どもも大人も体調を崩しやすい時季です。今年はすでにインフルエンザの流行がありました。引き続き子どもの健康管理に注意しましょう。



🍄「気楽に焦らずトイレトレーニング」教育学部 大西薫先生

『トレーニングを始める時期とイヤイヤ期が重なるころ。まずスタートのタイミングとして、一人歩きができる、おしっこの量が増える、簡単なやり取りができること。これらが備わっていない時期のスタートは、親子共々つらいトレーニングになってしまいます。大人の「構え」も大事で精神的に余裕を持って「ふんばる」より「ま、いいか」と言う覚悟が必要です。子どもに合わせた大人の働きかけなしではおむつは外れません。失敗を繰り返し、少しずつできるようになります。』

実際に子ども達は紙パンツの中でどんな感触でいるのか、水を流して体験しました。瞬く間に水を吸収して、掌で触っても濡れた感触はありません。トイレトレーニング紙パンツや布パンツは、掌に水がつき濡れた感触が十分にありました。『この快・不快感を知ることが大切です。排泄の間隔をつかみ、活動と活動の合間の誘導でトイレに馴染んでいきましょう。』トレーニンググッズの紹介があり、その他「おねしょ」と「夜尿症」についても学びました。

🍄「子どもとの関係を育む“聴く”かわり」教育学部 眞鍋顕久先生

「子どもの権利条約」にもあるように、子どもは一人の人格をもった大人と同じように大切にされる権利があります。大人と縦でなく横の関係作りをし、意見を尊重し気持ちを丁寧に聴くことで対話する関係が作られていきます。子どもの意見を「聴く」について、例えばコップの水いっぱいになったものに注ごうとしてもあふれてしまいます。コップの水を外へはき出す。すると新たな水を注げます。それと同じで吐き出す＝話を聞いてもらう→「聴く」かわりが大切なのです。

「ありがとう」「いいね」「うれしいよ」「えらいね」「おもしろいね」の「あいうえお」の褒め言葉で前向きな声かけをしましょう。そして見方として、リフレーミング：子どもの行動を前向きに捉え直す言い換え（騒がしい→元気がある、だらしがない→おおらか、など）、ミラーリング：子どもと同じ動きをする（楽しさを分かち合える）これらで、見えてくる子どもの姿が変わってきます。

育児休暇中のパパと子どもの親子がお出かけ先として“遊びの広場”を利用されています。他児のママと顔見知りになり、すっかり“くれまちす”に溶け込んでリラックスして過ごしているパパの姿をうれしく思っています。ママのお出かけ時やリフレッシュさせてあげたいなという時、是非利用して下さい。

岐阜聖徳学園大学内
地域子育て支援センターくれまちす
TEL: 058-278-4170(センター直通)
FAX: 058-278-4174
e-mail: kodomo@shotoku.ac.jp

